

第二回 オープンガバメントシンポジウムー社会的定着への課題

# サービス実働事例からみる 自治体の推進力

奥村 裕一

東京大学公共政策大学院

2014年11月19日

# 報告とパネルディスカッションの流れ

- 14:40-16:10 (90分)
- 冒頭 10分 イントロダクション 奥村
- 実働サービス紹介 各10分×4人
- パネルディスカッション 40分

# 原始時代から情報は人を巡る



人は情報を

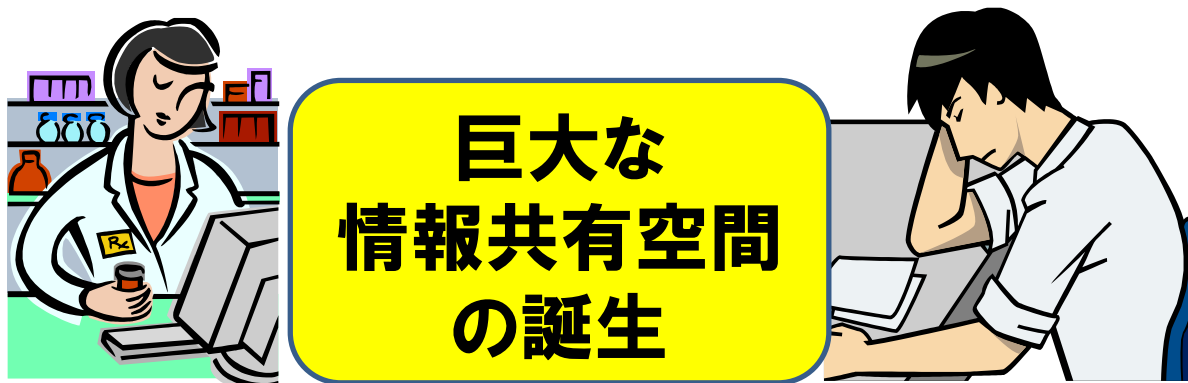
- ・声で伝える(話す)
- ・手振りで伝える(動作)
- ・紙に書いて伝える(文字・絵)

※伝えた途端にその情報は共有される  
※共有されてはじめて社会が生まれる

情報共有の

範囲に限界

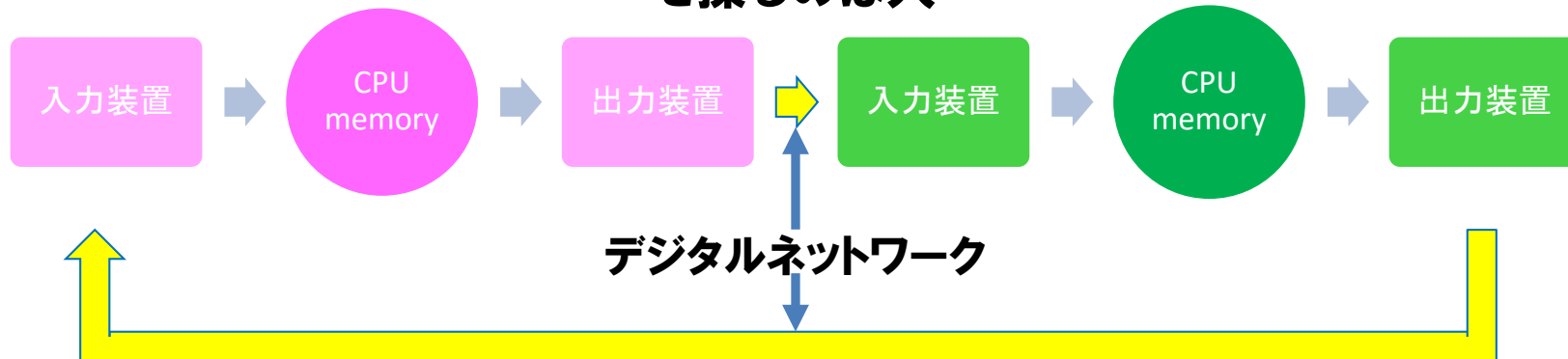
# 人間のつながりを支える デジタルネットワーク



Aさんが操る  
コンピュータ

コンピュータ  
を操るのは人

Bさんが操る  
コンピュータ



情報共有の範囲限界を克服  
Power of Information Sharing

デジタル社会出現

# デジタル社会の行政と社会

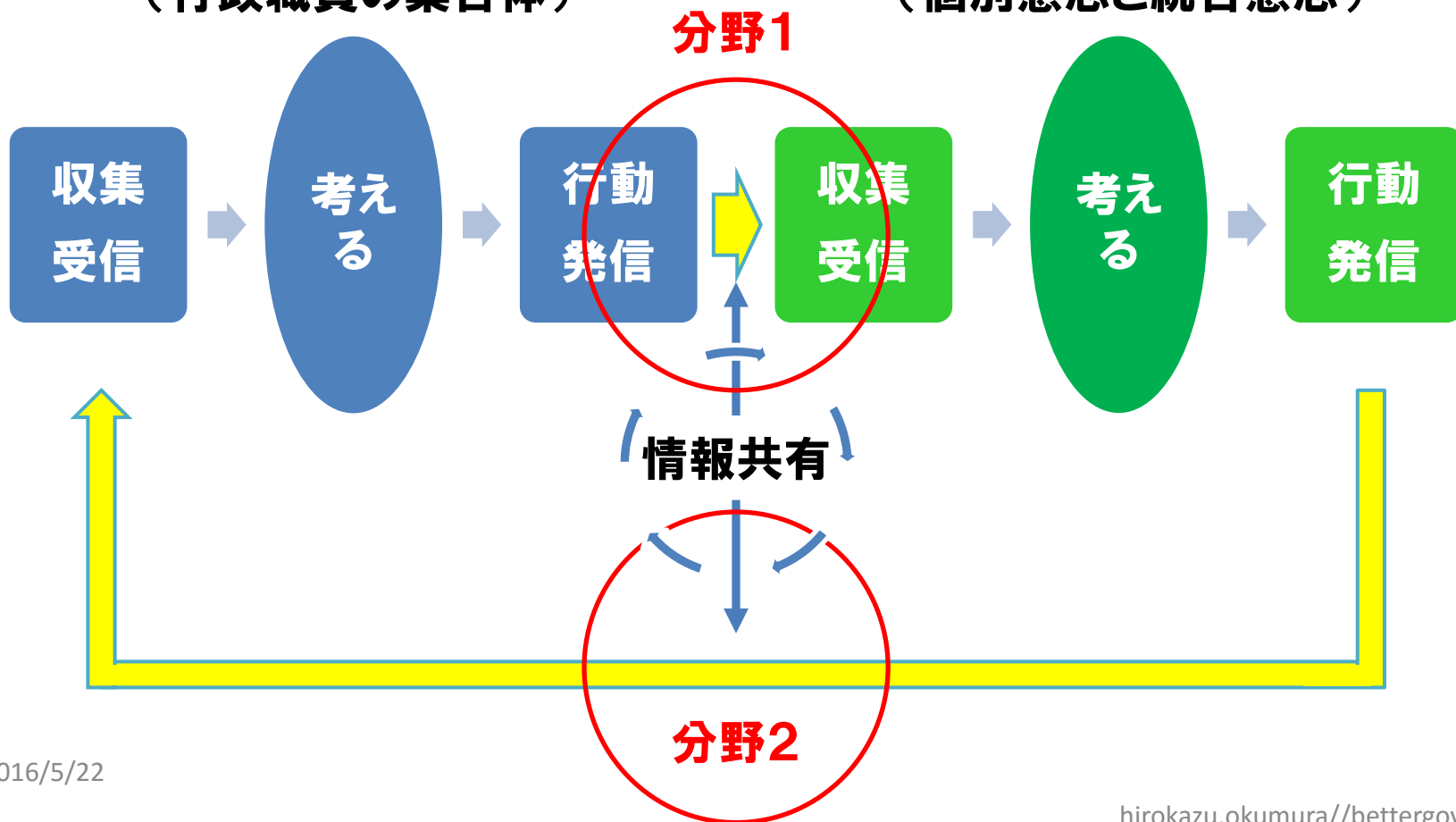
## 情報共有に2分野

行政

=行政サービス執行の組織体  
(行政職員の集合体)

社会

=個人・組織の集合体  
(個別意志と統合意志)



# 今回取り上げたサービス実働事例

## (登壇者氏名50音順)

- **ちばレポ(ちば市民協働レポート)**
- **横浜 育なび.net**
- **金沢 5374(ごみなし)**
- **鯖江 トイレ・Wifi 位置情報など多数**

# 情報共有分野1

## → オープンデータ

- 情報は行政から市民に流れる
- キーワード: 行政は情報のプラットフォームになる
- データ形式:
  - Machine Readable Data (XMLなど)とHuman Readable Dataの両方
  - 文字データ、数値データ、空間データ
- 対象データ(次のスライド参照):
  - 民主主義にかかわるデータ
  - 自然・生活・社会・経済にかかわるデータ
- 魅せる化: 一覧性 データ間の関連づけ 総合的好感度

# オープンデータの分類

1. 民主主義にかかわるデータ
  2. 自然・生活・社会・経済にかかわるデータ
- いずれも体系的オープン化

民主主義関連データ	自然・生活・社会・経済関連データ
選挙結果、議会動向、法案提出・審議状況	気象、地理、GPS、自然現象
裁判関係	日常生活余暇関連
政策や規制の策定過程と根拠	ライフイベント関連
予算・決算、個別の予算支出状況と政策評価	社会動向
法律、規則、通達の網羅的提供	経済動向
以上にかかる統計類を含む	

ジュリスト2014年3月号奥村記事より加筆修正



# 情報共有分野2

## → オープン政策形成&オープン施策実施

- 情報は市民から行政に流れる
- キーワード:市民は行政活動に参加する
- 対象:
  - 行政の政策形成プロセス
  - 施策の実施段階プロセス
- 市民参加の基盤はオープンデータ(情報共有分野1)
- 情報がループ状に流れてオープンガバメント完成

# 自治体の推進力

## ～当面の課題から将来まで～

- **一般の市民の参加度アップ**
  - － 市民がオープンガバメントに参加しやすい環境作りは
- **オープンガバメント対象の改善と範囲の拡大**
  - － オープンデータ系(透明)
    - 今の改善と次の有望分野 体系的アプローチの可能性
  - － オープン施策実施系(協働)
    - 今の改善と次の有望分野 既存の共助自助の活用の是非
  - － オープン政策形成系(参加)
    - どの分野から手がけるべきか //
- **市民ハッカー・社会活動家の活用度アップ**
  - － 他分野・他地域への展開方策

# (参考)オープンデータ三要件の整備

- **1. オープンデータを政府・自治体の標準にする**
  - 民主主義の深化、社会イノベーションの観点から、政府・自治体の持つデータの公開と再利用を標準にする
- **2. 法的オープン性を確保する**
  - パブリックドメイン化やオープンライセンスなど特に著作権法の制約からの解放を行う
- **3. 技術的オープン性を確保する**
  - 機械判読可能性、オープンフォーマット性、バルクデータ公開を行って、データの技術的制約を除去する

ジュリスト2014年3月号奥村記事より修正